

令和6年度 飯田港東防波堤復旧技術検討会（第1回）

日時等：令和6年11月13日（水）9：00～10：30（WEB方式）

1. 主な議事

- 事務局より本検討会の設置趣旨及び検討内容、飯田港東防波堤復旧方針（素案）を説明。能登半島地震で被災した飯田港東防波堤について、被災メカニズムの解明について検討に係る手法、考え方及び方向性について整理し意見交換を行った。

2. 主な意見

（1）飯田港東防波堤復旧に向けた検討

- 飯田港東防波堤の被災は、防波堤の被害形態から粘性土層の破壊が被害の原因であると推察される。
- 被災メカニズムを解明する手法としての数値解析は、堤体に作用させる波圧は、越流状態であることを想定して静水圧差式がよいと思われる。その際は港内側水位にも着目した方がよい。
- 被災メカニズムを解明する手法としての模型実験は、対象とする津波外力はエッジ波を対象とする。
- 遠心実験では、模型床製作について地震前の港内側海底勾配の影響が大きいと思われるので模型床での再現を実施する。

（2）飯田港東防波堤復旧方針（素案）

- 防波堤の復旧にあたり、設計外力、要求性能、性能規定を十分整理すること。
- 復旧法線については、ボーリングで必要強度が確認できれば元の法線での復旧が可能と考えられる。法線変更案は、静穏度の確認や新たな隅角部による波の収斂等の検討が必要である。
- 対策工として腹付工を設けることも一つの方法である。

3. まとめ

- 本日の議論を踏まえ、被災メカニズムの解明については、数値解析、模型実験及び遠心実験を進めることとする。また、飯田港東防波堤復旧方針についても検討を進めることとする。

－以上－